

Vol.2

1918年、まだパンを主食としてとらえることが少なかった時代に、創業した神戸屋は、「明日の食文化を拓く」をテーマに、百余年にわたり、人々の食卓を彩ってきました。その神戸屋がレストラン第1号店を構えたのが西宮市。甲子園店は、3号店として1980年にオープンして以来、地域の方々に永く愛されています。



神戸屋レストラン 甲子園店 ストアマネージャー 栗田 裕介氏

Q 神戸屋レストランのことを教えてください。

A 神戸屋という社名は、神戸の外国人の方に販売するところから名付けられました。当時、パンは主食ではなく、おやつや朝食のものというイメージが強いものでした。食事に合うパンを召し上がっていただきたいという想いで、1975年に日本で初めてとなる「ベーカリーレストラン」をオープンさせたのが、神戸屋レストランです。店内キッチンで仕込み、調理する名物のハンバーグなど、焼き立てパンに合うお料理を提供しています。カジュアルでありながら、ちょっと贅沢な気分が味わえる地域密着のレストランです。甲子園店では、レストランはもちろん併設のベーカリーで常時50種ほどのパンをご購入いただけます。



Q 甲子園店の特長はいかがですか。

A 40年以上の歴史を持つお店になりますので、週に2回以上お越しいただく常連のお客さまも多くいらっしゃいます。皆さまゆとりがあり、穏やかな印象です。ランチはやはり女性同士のグループの方が、ゆったりと愉しまれています。ウィークエンドやディナーはファミリーや30代くらいのご夫婦が多く、お正月やお盆は、三世代でお越しいただくなど、広々とした店内で、少しリッチな気分を楽しんでいただいています。



Q このエリアのお客様はどのような印象でしょうか。

A 街並みを見てもわかるように非常に高級感があり、暮らしやすいエリアです。交通や買い物も便利そうですね。住民の方々は時間にも、経済的にも余裕があり、穏やかな方が多いですね。ファッションも派手ではなく、いいものをきちんとお手入れしながら愛着を持ってお召しになられている堅実な印象を持っています。芦屋や宝塚、豊中などの店舗にも勤務いたしましたが、どことも異なる居心地の良さを感じます。



PROFILE

神戸屋レストラン 甲子園店
ストアマネージャー

栗田 裕介氏

学生時代のバイトで調理の楽しさに目覚め、料理人を志し、神戸屋レストランに入社。芦屋、宝塚、豊中などの店舗で腕を振るい、2023年4月より現職就任。